

## 背景

- 現在の局所吸収指針は100kHz～3GHzを適用範囲としているが、3GHzを超える周波数帯についても、無線LANなどでの利用が進み、第4世代携帯電話において使用するため、3GHzを超える周波数帯での局所吸収指針の策定が必要。
- 現在、国際電気標準会議(IEC)において、SAR測定法について以下の国際規格を策定中。
  - ・IEC 62209-2 人体に対し20 cm以内に近接して使用される無線機器(30MHz～6GHz)の測定法 (H21.12月頃)
  - ・IEC 62209-1(改訂) 側頭部で使用される無線機器の測定法の改定 (H22.夏頃)

## 国際ガイドライン(ICNIRP<sup>(注1)</sup>)と我が国の局所吸収指針との比較

	ICNIRP局所吸収ガイドライン (一般環境)	我が国の局所吸収指針 (一般環境)
100kHz～3GHz	2W/Kg <sup>(注2)</sup>	2W/Kg <sup>(注2)</sup>
3GHz～10GHz	2W/Kg <sup>(注2)</sup>	—

(注1) ICNIRP: 国際非電離放射線防護委員会は、非電離放射線に関する国際的な独立専門組織であり、電波や光の人体への安全性について科学的見地から検討し、勧告を行うことを任務としている。現在のガイドラインは1998年に改訂されている。

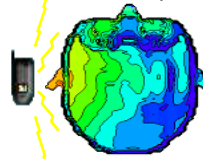
(注2) 任意の組織10g当たり。

局所吸収指針

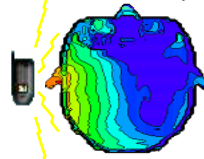
携帯電話端末等の人体頭部で吸収される電力の比吸収率 (SAR)の許容値(2W/Kg)を強制規格化。

(平成14年6月)

900MHz帯



1.5GHz帯







SARの値 高い 低い

頭部横断面のSAR分布

## (参考)WHOの検討スケジュール等

### WHOの検討スケジュール(予定)

2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
 IARC(注3)インターフォン 研究論文ジャーナル掲載		 IARC高周波電磁界 の発がん性タスク 会議開催	 IARC モノグラフ発行	 WHO環境保健 クライテリア策定

(注3)IARC:WHO付属機関の国際がん研究機関。

### その他の知見

○WHOファクトシート304 (電磁界と公衆衛生 基地局及び無線技術)(2006年)



- 非常に低いばく露レベルと、これまでに集められた研究結果を考慮すれば、基地局及び無線ネットワークからの弱い無線周波信号が健康悪影響を生じるという明白な科学的証拠はない。

○生体電磁環境研究推進委員会報告書(2007年)

- 現状の電波防護指針は適当であり、直ちに改訂の必要はない。
- 今後、科学技術の進展により電波の利用形態が変化することを考慮し、国際動向や各種研究結果を踏まえながら必要に応じ、国際ガイドラインの改訂、電波防護指針の見直しの必要性について検討することが重要。

# (参考) IEC 62209-2及びIEC 62209-1(改訂)の検討状況について

IEC 62209-1(現行規格と改訂) と IEC 62209-2 について

主な項目	IEC 62209-1 現行規格	IEC 62209-1 改訂	IEC 62209-2
	適用範囲	側頭部で使用される無線機器	
対象部位	側頭部		側頭部を除く、頭部・胴体・四肢
想定対象機器	主に携帯電話 	<ul style="list-style-type: none"> <li>曖昧な箇所の修正</li> <li>62209-2との整合</li> <li>測定的高速化, 簡素化</li> <li>新システムへの対応</li> <li>新技術の取り込み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>側頭部以外で利用される携帯電話・無線通信機器</li> </ul> 
周波数	300 MHz – 3 GHz	30 MHz – 6 GHz	30 MHz – 6 GHz
ファントム形状	頭部を模擬 	検討中	平板形状 
設置方法	頬の位置, 傾斜の位置	検討中	マニュアル記載の使用方法を模擬

## 国際規格化のスケジュール

	2008	2009	2010
IEC 62209-2	△ CDV	△ FDIS    △ IS	
IEC 62209-1 改訂		△ CDV	△ FDIS    △ IS

CDV：投票用委員会原案、 FDIS：最終国際規格案、 IS：国際規格